

平成 29 年度

オンネトー魅力創造委員会

取組報告書

【オンネトーの魅力創造計画 2018】



～時がとまる湖・オンネトー～

平成 30 年 3 月

はじめに

本委員の中には、雌阿寒岳・オンネトー地区に何年も行っていない方も多く、またそれは足寄町全体にも言えることで、観光入込数に較べて、人も経済もオンネトー地区と地域との関わりが弱いと言えます。

一方で、毎年何十万人もの観光客が訪れている場所であるため、積極的な保全を行っていかなければ、今のオンネトー地区のもつ魅力が失われていく可能性もあります。

また、団体観光から個人観光へのシフト、外国人旅行客の増、アウトドア・登山ブームの再燃など、観光ニーズの変化に対応していかなければ、来訪者数が減少していく可能性もあると思います。

本委員会では、今年度、地域ができる魅力の高め方を探ってきました。来年度以降は、それを実践し、実現性を調査しながら、地域にとってのオンネトー地区の在り方を検討していきます。

オンネトー地区がグローバルかつローカルに魅力のある場所になるように、今後も本委員会の活動にご協力をお願いいたします。

平成30年3月16日

オンネトーの魅力創造委員会委員長 佐野 健士

目 次

1 経緯	1
■「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2020」抜粋	2
2 オンネトーの魅力創造委員会の設置目的	3
3 現状	5
○ 自然環境、特性について	
○ 観光について	
○ 施設について	
4 課題	8
5 基本コンセプト	9
・キャッチフレーズ	
・基本方針	
6 オンネトー・雌阿寒岳地区の利用のあり方	10
① 全体	
② 雌阿寒岳温泉	
③ 展望デッキ（オンネトー園地）	
④ キャンプ場	
⑤ 茶屋（レストハウス）	
⑥ 湯の滝園地	
⑦ 雌阿寒岳	
⑧ 道路（道道）	
⑨ 遊歩道	
7 平成 30 年度に向けて	13
・部会について	
・スケジュール	

平成 29 年度オンネトーの魅力創造委員会における

取組報告書

1 経緯

日本政府は、国の成長戦略及び地方創生の柱に観光産業を位置づけており、日本を「観光先進国」に成長させるべく、政府一丸・官民一体となり各種取組を進めていくため、平成 28 年 3 月 30 日に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定した。

当ビジョンの実現のために重点的に取り組むべき施策の 1 つとして「日本の『国立公園』を世界水準の『ナショナルパーク』としてのブランド化を図る」ことが掲げられた。これまで自然環境の保護に主眼を置いてきた国立公園に、新たに観光活用の視点を導入し、自然満喫メニューの充実・支援、上質感のある滞在環境の創出、海外への情報発信強化、観光資源の有効活用を目的とした関係省庁や関係自治体の一体的な取組の強化等を通して、訪日外国人利用者数を平成 27 年の年間 430 万人から、平成 32 年には 1,000 万人まで増加させることを目標としている。

環境省では、この数値目標の達成のために、平成 28 年 5 月に「国立公園満喫プロジェクト」を開始し、数回の有識者会議を経て、国立公園の自然環境をツーリズムに開放し、高品質・高付加価値のインバウンド市場を創造するための共通指針を固めるとともに、阿寒摩周国立公園を含む 8 公園を当プロジェクトに先行的・集中的に取り組む公園として選定した。

阿寒摩周国立公園では先導的モデル公園への選定を受け、関係省庁、関係自治体、関係団体等からなる阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会を設置し、平成 28 年 12 月に、平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間を計画期間とした「ロードマップ」として「阿寒国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2020」（平成 30 年 3 月に「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2020」へと改定）を策定した。本プログラムにおいては、プロジェクトのコンセプトを「火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する」とし、訪日外国人利用者数を平成 27 年の年間 6.3 万人から、平成 32 年には 15 万人まで増加させ、かつ公園内及び周辺地域において国内外の利用者の旅行消費額向上を図ることを目標としている。

また、当プログラムでは、観光資源として高いポテンシャルがある地域「重点取組地域（ビューポイント）」として、オンネトー・雌阿寒岳地区を含む 5 地域を指定しており、これら地域では幅広い主体による有機的な連携により、重点的な取組を推進していくこととしている。オンネトー・雌阿寒岳地区において平成 32 年までに達成すべき取組は以下に示すとおりである。

■ 「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2020」 抜粋

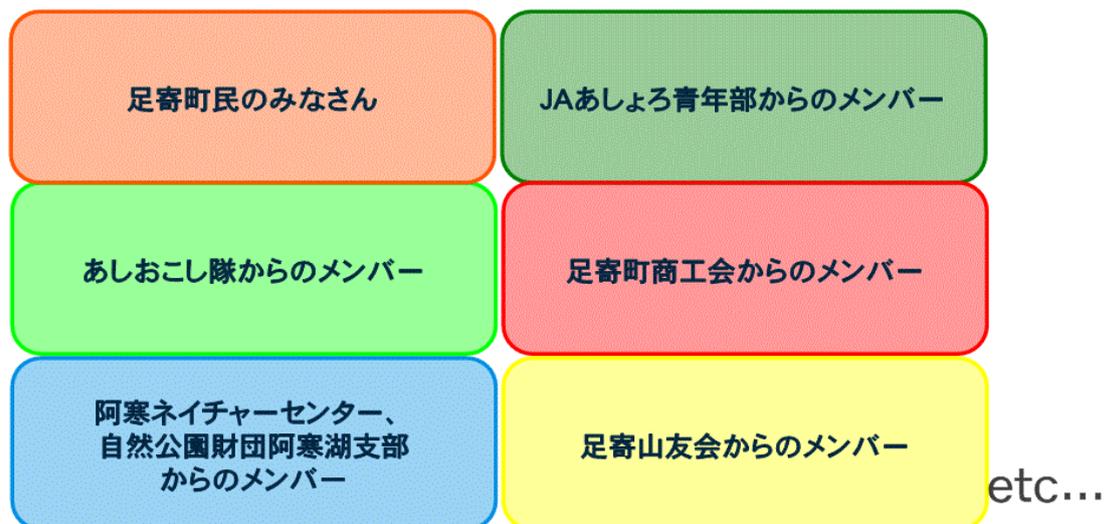
＜オンネトー・雌阿寒岳＞						
取組	実施主体	2016年度 (平成28)	2017年度 (平成29)	2018年度 (平成30)	2019年度 (平成31)	2020年度 (平成32)
ア) 多様なサービスの提供のための民間活用						
a) 公共施設等の民間開放	2020(平成32)年度までに、雌阿寒温泉園地及びオンネトー園地を中心として、雌阿寒岳等を含めた周辺地域の情報提供やガイドセンターの機能を担うインフォメーションセンター等の設置について、民間団体等による管理運営を含めた検討を行い、その結果を踏まえ取組を進める。	環境省、北海道、足寄町	●	●	●	●
b) 上質な宿泊施設の誘致	2020(平成32)年度までに、オンネトー国設野営場の民間経営委託及びグランピングなど富裕者層もターゲットにした事業モデルを検討し、その結果を踏まえ取組を進める。	足寄町 等		●	●	●
c) ツアー・プログラム開発とガイド育成	2017(平成29)年度までに、オンネトー・雌阿寒岳において適切な利用を推進するためのあり方について、必要な施設の観点も含めた検討を進め、全体構想等としてとりまとめる。	環境省	●	●		
	2020(平成32)年度までに、以上の全体構想等を踏まえ、雌阿寒温泉園地、オンネトー園地、国設野営場地区、雌阿寒岳、オンネトー湯の滝等において具体的なツアー・プログラムの開発・実施を図るとともに、利用者の多様なニーズに応えられるガイド育成を含めたガイド組織等の確立に向けた検討を行う。	足寄町、あしよる観光協会 等		●	●	●
d) 利用料等の公園管理への活用	2020(平成32)年度までに、雌阿寒温泉園地及びオンネトー園地等における駐車場利用に係る協力金の導入について検討する。	環境省、北海道、足寄町		●	●	●
イ) まちなみ等の景観改善	—					
ウ) 質の高い利用環境を提供するための施設整備等	2020(平成32)年度までに、オンネトー園地及び雌阿寒温泉園地における再整備等のあり方を検討し、その結果を踏まえ再整備等を進める。	環境省、北海道、足寄町		●	●	●
	2018(平成30)年度までに、道道オンネトー線について、歩道柵の再整備を進める。	北海道		●	●	
	2020(平成32)年度までに、雌阿寒温泉園地における施設の再整備、多言語に対応した解説看板や標識の整備等を行う。	足寄町				●

2 オンネトーの魅力創造委員会の設置

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会等が策定した全体構想と連携の上、地域の適切な利用を促進するためのあり方等について総合的に検討するため、平成29年5月に、北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課を事務局に、また地域住民を主たる構成員とした「オンネトーの魅力創造委員会」が設置された。

オンネトーの魅力創造委員会は、オンネトー・雌阿寒岳地区の自然資源の魅力を最大限に引き出した、持続可能な利用のあり方を検討することで、自然環境を保全と当地域へ誘客増加を両立させ、足寄町市街地を始めとする周辺地域への経済効果を生み出していくことを目的としている。

【委員会メンバー：27名】



【地域住民を主たる構成員とする目的】

- ・観光資源の発見やその活用方法の検討にあたり、行政の視点のみならず、地域住民の視点を取り入れ、地域一丸となってオンネトー・雌阿寒岳地区を盛り上げる気運を作り出す。
- ・地域住民の当地区への愛着心を育むことで、自然環境の保全と両立した利用を心がけるようになり、持続可能地域づくり体制の構築につなげる。
- ・当地区を地域住民にとっての環境教育・普及啓発の場として位置づけ、当地域の自然環境の保全を推進する。

■ オンネト一の魅力創造委員会と阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会の連携 イメージ図



3 現状

○ 自然環境、特性について

オンネトー・雌阿寒岳地区は火山・森・湖に象徴される阿寒摩周国立公園の魅力を五感で一度に味わうことができる人気スポットであり、同公園の西の玄関口として重要な地区となっている。

雌阿寒岳は、現在も活動を続ける活火山である一方、深田久弥の著書「日本百名山」に選定され、年間約1万2千人が訪れる登山客に人気の山である。山麓は、トドマツやアカエゾマツの天然林に覆われ、メアカンキンバイやメアカンフスマ等の固有種も生育している。

雌阿寒岳の麓に位置するオンネトーアイヌ語で「古老の湖」の意)は、(季節や天候、時間によって青い色に変化する美しい湖で、その絵葉書のような荘厳な景色を一目見ようと年間約30万人が訪れている。

オンネトー湯の滝は、「世界唯一の地表でマンガン酸化物が生成する地」として国の天然記念物に指定されている。黒い岩場の斜面を湯が流れ落ちるさまは、圧巻である。

雌阿寒温泉は、国内有数の力強い硫黄泉で、観光雑誌の北海道泉質 No. 1 に選ばれたこともある。男性世界最高齢の方がいる長寿の湯としても有名である。

○ 観光について

雌阿寒岳の利用者は年間約1万2千人であり、そのほとんどが雌阿寒温泉登山口もしくはオンネトー登山口から往復での登山をしている。阿寒湖畔側から雌阿寒温泉・オンネトー登山口への縦走を行う(逆のルートも含めて)登山者は極めて少数である。

オンネトーは年間約30万人以上が訪れる人気スポットであり、観光バスにて多くの団体客が展望デッキまで訪れているほか、近年では自家用車やレンタカーで訪れる個人客も増えてきている。

当地域における宿泊は、およそ雌阿寒温泉地区の温泉旅館1軒もしくはオンネトー国設野営場でのみ行われる。登山もしくはキャンプの客を除けば、阿寒湖畔の宿泊施設を起点とする朝晩の観光バスで来場し展望デッキ等で景観を楽しむだけの短時間滞在が主流となっている。

当地域においてはこれまでも大規模な観光開発が計画されてきたことがあったが、バブル崩壊等によりその計画は頓挫してきた。現在、当地域には観光事業者等が入り込むことはなく、経済活動がほとんど行われていない。

■雌阿寒・オンネトー地区年表

地域	年代	明治・大正	昭和初期	戦後	高度成長期	バブル期	平成	現在
計画等					昭和42年オンネトー地区観光診断 (日本観光協会)	昭和42年足寄町観光振興基本計画(国立公園協会) リゾート開発	平成20年公共交通調査	平成29年「阿寒摩周国立公園」へ名称変更
雌阿寒温泉		大正2年野中増次郎氏により開湯		昭和31年ユースホステル 昭和33年景福 昭和35年国民宿舎 昭和38年阿寒富士荘	規模現状維持質の向上を目指す。 駐車場の必要性 昭和44年 野中温泉別館 昭和48年 環境省国民保養温泉地		町にて雌阿寒温泉駐車場トイレの設置	
雌阿寒岳			登山道のPR 全国的にメジャーに	昭和39年雌阿寒岳スカイライン計画(十勝-釧路間) 日本百名山に選定	登山道整備、七合目に避難小屋 昭和30年～山開き	昭和63年～安全祈願祭		
噴火		明治17年硫黄鉱山として鉱区設定	昭和26年より鉱山として本格採掘		公害発生	昭和54年鉱業権放棄	昭和63年公害対策工事完	
オンネトー			S2	S27.S29.S31.S33.S34.S35	S40.S41	S59.S63	H8.H10.H18	H20 H27レベル2立入規制のみ
野営場				昭和39年十勝オンネトー青年の家設置 昭和41年営林署により国設野営場設置 昭和45年自然休養林に指定	現状維持 昭和55年 営林署保養所を町で買い取り、観光協会が茶屋として営業開始	昭和51年～オンネトー紅葉まつり 昭和63年～平成12年オンネトー湖上コンサート	平成9年 青年自然の家廃止、野営場管理棟の設置 平成12年～オンネトー物語	
錦沼				昭和34年褐鉄鉱採掘→水が枯れる→保全活動				
湯の滝				昭和25年マンガン鉱床採掘	保養温泉センター レクリエーション施設の開発 10ha	テラピア放流、 露天風呂整備	代替え露天風呂・ミニビジターセンター設置 平成12年天然記念物化、	入浴禁止、外来魚駆除、施設老朽化

昭和9年阿寒国立公園に指定

登山ブームにより学生を中心に多くの登山者が訪れる
中高年登山ブーム アウトドアブーム

○ 施設について

現存する主な施設は、以下の通りである。

	施設名	設置年	規模
国 林野庁	国設オンネトー野営場	昭和 52 年設置	面積：1.5 ha 収容人数：500 人
	湯の滝駐車場トイレ		
北海道	オンネトー展望デッキ	平成 14 年度	木造 面積：232.49 m ²
	オンネトー園地トイレ	平成元年	木造平屋建切妻屋根：1 棟 建築面積：33.15 m ²
	湯の滝園地 ミニビジター	平成 8 年度	木造平屋建切妻屋根：1 棟 建築面積：69.56 m ²
	湯の滝園地 休憩所	平成 8 年度	閉鎖（天然記念物保護のため）
	道道オンネトー線道路		延長：4.9 km 幅員：5.5m 起点 雌阿寒温泉入口 終点 オンネトー
	道道モアショロ原野螺 湾足寄停車場線	平成 28 年 3 月	延長：4.0 km 幅員：3.5m 起点 螺湾市街 終点 オンネトー
足寄町	雌阿寒温泉駐車場	昭和 48 年承認 昭和 63 年舗装 平成 28 年改修	面積：1,627 m ² ・水飲み場 1 箇所 ・街路灯 2 灯（LED 化）
	雌阿寒温泉駐車場 トイレ	平成 7 年設置 平成 27 年改修 便座洋式化、多 言語表記、内外 装補修	建築面積 42.56 m ² 排水再利用式浄化槽 ・男性（小 3、洋 1、和 1） ・女性（洋 3、和 1） ・多目的トイレ（洋 1）
	オンネトー野営場水道 施設	昭和 58 年移管 営林署→町	取水施設 延長：300m
	オンネトー茶屋	昭和 37 年築	建築面積：185.82 m ²
	湯の滝トイレ	昭和 62 年	木造、小 2、和 2、汲み取り式
	案内看板 ・雌阿寒温泉園地	平成 28 年改修	3 基（登山口 1、駐車場 2）
	雌阿寒温泉宿 舎	山の宿野中温泉	
野中温泉ユースホステル			日帰り入浴のみ
景福			休業中

4 課題

第2回委員会等において、オンネトー・雌阿寒岳地区の利用状況に係る課題を以下のとおりに整理した。

	問題点	課題
サービス	当地区には、専門ガイドが極めて少ないこともあり、当地域の自然環境の魅力について利用者に十分に伝わっていない可能性がある。	ガイドの育成
	当地区へのアクセス手段として乗用車以外がほぼ無い。	新たなアクセス手段の提供
施設等	ビジターセンター等展示解説や周辺案内等を行う施設がなく、情報収集のツールが不足している。	新たな施設の整備
	連絡する車道の幅が狭い、駐車場が少ない等の理由により、渋滞する時期がある。	既存施設の再整備及び修繕
	既存の施設のほとんどで老朽化が進行している。	
自然環境	植生の変化や外来生物の侵入等。	モニタリング等保全体制の構築
	環境教育、普及啓発を目的とした利用が十分になされていないとは言えない。	教育等の場としての解放
地域経済	当地区に根ざした事業者が少なく、町の経済への貢献が少ない。また、足寄町市街地と当地区を一体として捉えることができず、観光、商業等の事業展開が望めない。	事業者の誘致及び市街地との連携体制の構築



5 基本コンセプト

第6回委員会ではオンネトーの魅力創造委員会が目指すオンネトー・雌阿寒岳地区のあり方を表現するため、キャッチフレーズと基本方針を設定した。

【キャッチフレーズ】

「時がとまる湖・オンネトー」

阿寒カルデラの火山活動により、雄大な雌阿寒岳と特徴的な色彩を放つオンネトーが誕生し、オンネトー・雌阿寒岳地区に特徴的な原生森や様々な動植物種が育まれてきた。これらの豊かな自然環境により、俗化されていない雰囲気、静かな時間そして多様な体験の空間が作り出されている。この環境を次世代に引き継ぐことを目的に、その魅力を最大限に発揮できるよう官民協働で取り組む。

【基本方針】

オンネトー魅力創造委員会は、以下の方針の下に、計画・取り組みを進める。

- ・ (保全) 雌阿寒岳と山麓の森林、オンネトー、湯の滝などの自然景観を現状のまま適正に守る
- ・ (学習) 原始からの地質、森林、環境、地域の歴史を学び、次世代にその魅力を伝える
- ・ (体験・癒やし) 観光、写真撮影、登山、キャンプなど、国立公園ならではの多様なレクリエーションと保健・保養の機会を提供する
- ・ (防災・安全) 火山の活動状況や避難ルート、登山道や遊歩道などの危険箇所の周知方法を改善し、公園利用者の安全を確保する
- ・ (交流) 国、地域、公園の境界をこえて、ひと・産業・暮らしをつなげる



6 オンネトー・雌阿寒岳地区の利用のあり方

オンネトー・雌阿寒岳地区を現在の利用状況、施設の配置、アクセス、自然環境等の特性から以下のゾーンに分類し、望ましい利用形態や施設、サービスの内容について、ゾーン毎に検討した。

①【全体】

オンネトーや雌阿寒岳をはじめとし素晴らしい景観を多く有し、静かで、俗化されていない雰囲気を持つ。多様な自然環境が小さなエリアに存在するため、潜在的に登山や温泉、散策等多くの楽しみ方が可能である。

一方、これらのスポットやアクティビティに関する情報の発信が乏しく、当地区の魅力を伝えることができていない可能性がある。

地域全体を解説できるガイドの育成や魅力情報発信を行い、自然環境そのものを楽しむ機会を多くの人に提供していく必要がある。リピーターの獲得、普及啓発と保全活動の循環を目指すとともに、足寄町市街地との連携を図り、市街地の経済効果への波及を期待する。

②【雌阿寒岳温泉園地】

温泉のみならず、雌阿寒岳登山口や駐車場を有する。

オンネトー・雌阿寒岳地区の玄関口とも言える当園地においてはインフォメーションセンター等を設置し、利用者に地域の魅力や、利用上の注意点等を案内する機能を担いたい。

③【オンネトー園地】

オンネトーに映る雌阿寒岳を望む代表的なビューポイント。車でアクセスできるオンネトー西岸の展望地。デッキ、トイレ、駐車スペースや解説板等がある。展望デッキはオンネトー・雌阿寒岳地区の中で、最大の集客点となっている。

しかし、利用者がデッキ周辺にとどまることが多く、デッキの奥にあるキャンプ場、レストハウス、湯の滝等のゾーンまで人を周遊させることができていない。オンネトー園地の奥の区域への移動を促すため、案内看板、展望台やトイレ等施設の必要性及び位置等について検討する。

④【国設キャンプ場】

手つかずの大自然を満喫できるキャンプ場として人気がある。不慣れな人でもキャンプを楽しめるよう、専門の資材や人材の配置が必要である。

キャンプ場へと繋がる散策路については、入口がわかりにくい等の問題があり、案内看板等を整備する必要がある。

⑤【茶屋（レストハウス）】

オンネトー南端に位置。平成5年より足寄観光協会が食事及び休憩の場所として営業している。湖を見ながら食事ができる場所として魅力的である。

提供する食材の充実化や、提供方法の改善により観光客の満足度が向上し、更なる誘客を図ることができると考えられる。茶屋の持続可能な運営のため、老朽化した施設の改修やスタッフの確保等も検討する必要がある。

⑥【湯の滝園地】

野営場横の駐車場から徒歩で約20分。休憩所と小規模の展示施設を有する。

ティラピアやグッピー等の外来魚進入の歴史から、外来生物問題の深刻さや対策の難しさを伝えることができる。普及啓発や環境教育の場として当地域を今以上に活用するため、展示の更新や、ガイドの人材育成が必要である。

⑦【雌阿寒岳】

現在も数年毎に小規模な噴火を繰り返していることから、外国人含めた登山者への火山防災の情報提供のあり方について検討する必要がある。また、登山ガイドの育成や現地での登山情報発信施設の整備、足寄町市街地及び当地での登山装備の販売等といった各種サービスの充実により、これまで以上に人気のある山となる可能性を秘めている。看板の老朽化や駐車場の不足等の施設に関する問題はある。

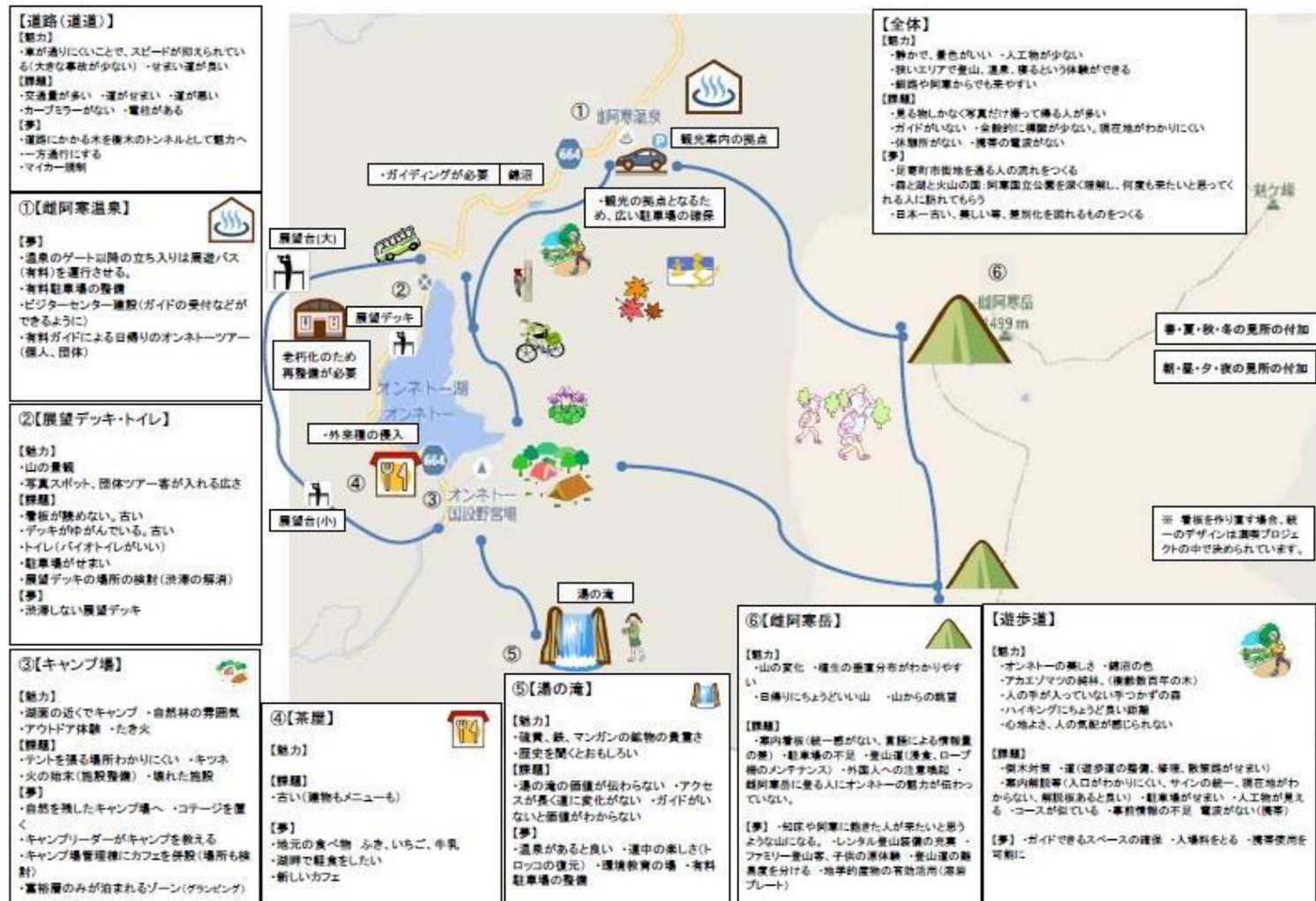
⑧【道路（道道）】

足寄町上螺湾からオンネトー野営場までの道道（未舗装）、野営場から雌阿寒温泉までの探勝ルート等が整備されている。今後、正確な利用状況調査を実施し、それを踏まえて当地域の季節ごとの利用のあり方や災害発生時の避難路としての役割を検討する。

⑨【遊歩道の活用】

雌阿寒温泉から野営場にかけての原生林を通る遊歩道を散策すれば、静寂な自然を味わうことができる。散策ツアーの開発やガイドの人材育成に取り組む必要がある。また、風倒木や危険箇所の補修、散策路の修繕等を実施する体制についても検討する。

■ オンネトー・雌阿寒岳地区の利用のあり方 イメージ図



7 平成 30 年度に向けて

平成 30 年度は、平成 29 年度に整理したキャッチフレーズ、基本方針及び利用のあり方に沿い、オンネトー・雌阿寒岳地区における適正な利用の促進に向けた課題等の解決のため、部会ごとに検討を進める。とりわけ、当地区の利用状況改善に必要な事業のうち、実行可能なものを試行し、今後の事業実施の可能性について検討する。

【平成 30 年度 オンネトー魅力創造委員会の予定】

	分担	平成 30 年度の活動・検討内容
全体会議	全体での方向性の確認、各部会での検討内容の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議 ・シンポジウム開催 ・施設及び設備の検討 ・他地域との連携・調整
・インフォメーション部会	当地区の域外へのプロモーションと、市街地から当地区の現地情報提供のあり方及び効果について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの検討 ・モニタリング調査を実施 ・域外への情報発信の検討 ・現地までの誘導方法の検討 ・現地案内の検討
・ツーリズム部会	当地区でのツアーコンテンツ及びガイドの育成について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド育成プログラムの実施 ・ガイドコース・アクティビティ開発
・食部会	現地及び市街地における来場者への食の提供について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・現地での食の提供について検討 ・市街地への誘導について検討

【重点項目に関する検討スケジュール】

	H30	H31	H32
ガイド	育成プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・商品造成 ・実施事業者育成 ・テストツアー実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売開始 ・施設運用開始
アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー洗い出し ・試行 		
食	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者育成 		

※施設整備に関しては、委員会での検討を踏まえ、各行政機関にて検討を進めることとする。

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト
オンネトーの魅力創造委員会設置要綱

(設置)

第1条 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトにおけるオンネトー地区の魅力を創造していくことを目的に、阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトオンネトーの魅力創造委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(事業)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) オンネトー地区の適切な利用を促進するためのあり方の検討
- (2) オンネトーの魅力創造計画の作成
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要なこと

(組織)

第3条 委員会は、次の組織等により構成する。

- (1) 環境省阿寒摩周国立公園阿寒湖管理官事務所
- (2) 北海道十勝総合振興局
- (3) 足寄町
- (4) NPO 法人あしよろ観光協会
- (5) 足寄町商工会
- (6) めあかん自然塾
- (7) 足寄山友会
- (8) 九州大学農学部附属演習林北海道演習林
- (9) 足寄町民
- (10) その他趣旨に賛同する者

(役員)

第4条 委員会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
 - (2) 副委員長 1名
 - (3) 監事 1名
- 2 委員長は、委員の互選により決定し、副委員長、監事は委員長が指名する。
- 3 委員長不在時は、副委員長が委員長の代行を行う。

(職務)

第5条 委員長は委員会を代表し、業務全般を総括する。

- 2 監事は、本会の会計を監査する。

(事務局)

第6条 事務局は、十勝総合振興局保健環境部環境生活課に置く。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が事務局と協議して定める。

付 則

この要綱は、平成29年5月18日から施行する。

付 則

この要綱は、平成29年10月2日から施行する。

■ オンネトーの魅力創造委員会 名簿

	所 属	氏 名
委員長	合同会社 FeetMeet	佐野 健士
副委員長	足寄町商工会 青年部	山下 侑他
	山の宿 野中温泉	野中 祐子
	足寄町商工会	佐々木 健一
	九州大学 北海道演習林	智和 正明
	足寄山友会	田村 勝夫
	あしおこし隊	沼田 正俊
	あしおこし隊	石田 直久
	あしおこし隊	本間 幸雄
	足寄町商工会 青年部	堂田 信悟
	足寄町商工会 青年部	木村 祥悟
	足寄町商工会	大久保 基
	足寄町農業協同組合 青年部	新妻 礼隆
	足寄町農業協同組合 青年部	方川 信博
	足寄動物化石博物館	澤村 寛
	足寄町移住サポートセンター	儀間 美沙子
	足寄町役場	儀間 雅真
	(有)マニザキ	榊原 武義
	学習塾	矢野 利恵子
	阿寒ネイチャーセンター	安井 岳
	一般財団法人 自然公園財団阿寒湖支部	田中 政人
	ネイパルあしよろ	村上 真琴
	北海道森林インストラクター会	井上 嘉明
	自営業	佐野 榮一
	帯広信用金庫 足寄支店	平松 央
	JA あしよろ	佐藤 裕也
	NPO 法人 あしよろ観光協会	伊藤 貴之
■ アドバイザー		
	北海道大学 大学院農学研究院 基盤研究部門 生物資源科学分野 花卉・緑地計画学研究室 准教授	愛甲 哲也
■ 事務局		
	足寄町役場経済課林業商工観光室 次長	小松 芳幸
	足寄町役場経済課林業商工観光室商工観光・エネルギー担当 主査	村石 靖
	足寄町役場経済課林業商工観光室商工観光・エネルギー担当 主事	門野 亮介
	阿寒摩周国立公園管理事務所 国立公園利用企画官	山本 俊介
	阿寒摩周国立公園阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	安藤 祐樹 (12/31 まで)
	阿寒摩周国立公園阿寒湖管理官事務所 国立公園管理官	末永 珠佑 (1/1 から)
	阿寒摩周国立公園阿寒湖管理官事務所 アクティブレンジャー	末永 浩之
	十勝総合振興局環境生活課 課長	清水 直子
	十勝総合振興局環境生活課自然環境係 係長	宮崎 広幸
	十勝総合振興局環境生活課自然環境係 主任	牛嶋 あすみ
	十勝総合振興局環境生活課自然環境係 技師	鎌田 祐奈
	北海道大学 学生	小林 奈津美

■ 委員会の記録

5月の委員会設置後、以下のとおりに開催した。

第1回	平成29年 5月18日	① 満喫プロジェクトについての概要説明 ② オンネトー・雌阿寒岳地区への印象等について意見交換
第2回	平成29年 6月18日	① オンネトー・雌阿寒岳地区の視察 (現地の情報、魅力、課題を確認し、共有) ② 現地見学を踏まえて、魅力、課題、夢等を整理
第3回	平成29年 7月24日	① 阿寒摩周国立公園内他地域の満喫プロジェクト進捗状況確認 ② 「阿寒摩周国立公園阿寒地域管理計画」制度説明 ③ コンセプトや基本方針の検討
第4回	平成29年 9月6日	【オンネトーフォーラムの開催】 ■ オンネトーの魅力創造委員会の中間報告 ■ 講演 公益財団法人日本交通公社 寺崎 竜雄 氏 演題「自然と地域を生かすこれからのツーリズム」 ■ パネルディスカッション (コーディネーター) 北海道大学大学院農学研究院 准教授 愛甲哲也 氏 (テーマ) ① オンネトーの魅力 ② 今後の展望
第5回	平成29年 10月2日	① ゾーン毎の施設整備のあり方について検討
第6回	平成29年 11月13日	① キャッチフレーズ・基本方針の決定 ② 外国人から来た人の目線 ～オンネトーを見てどんな風に感じたか？～ カナダ人及び中国人との意見交換 ③ オンネトーにふさわしい観光プランを作ってみよう！
第7回	平成29年 12月7日	① ビジターセンターの機能、役割等の基準について議論 ② オンネトーに必要な施設整備を検討
第8回	平成30年 2月1日	① 事業化できる可能性のあるツアーコンテンツや食事メニュー及び利用状況等の現状把握のため必要な調査等、これからの展開について検討
第9回	平成30年 3月5日	① 委員会報告書について ② 平成30年度の各検討内容について
第10回	平成30年 3月16日	【オンネトーの魅力創造委員会 取組報告会】 ■ 取組報告 佐野委員長 ■ 愛甲氏から委員会へのコメント ■ パネルディスカッション テーマ 委員会のこれからの事業

平成 29 年度 オンネトー魅力創造委員会 取り組み報告書

発行者	オンネトー魅力創造委員会	
事務局	十勝総合振興局環境生活課	☎0156-26-9028
	環境省阿寒湖管理官事務所	☎0154-67-2624
	足寄町役場経済課	☎0156-25-2141
発行日	平成 30 年 3 月 16 日	